



八高新時代!! 君も挑戦、八高で三刀流!!

「知の泉」に「緑の風」吹く

令和5年9月28日(木)

兵庫県立八鹿高等学校

校長 山本 宏治

13

避難・誘導訓練に際し、次の話をしました。

1925年5月23日、マグニチュード6.8の北但馬地震が発生し、その後の火災で豊岡、城崎が壊滅的な被害を受けました。いわゆる「北但大震災」です。この大災害からすでに98年以上が経過していますが、この間、但馬では台風等による水害など大きな災害を幾度となく経験してきました。自然災害の発生は予測が困難で、まさに「今」、なにかが起こってもおかしくありません。

予期せぬ災害に対して、私たちの備えの基本となるのは、「想像力」と「協働」です。

1 「想像力」

もし~だったら、どうやってそれを回避できるだろう、と考える想像力を持ちましょう。今日の訓練とは異なる場所で火災が発生したら…。訓練とは異なる教室で授業を受けている時だったら…。休み時間中や放課後、あるいは登下校中だったら…。地震で階段がくずれていたり、ドアがゆがんで開かなかったりしたら…。あらゆる危険を想定して、それを回避する最善の方策を考えることが、あなたを、そしてあなたの大切な人を救うのです。

2 「協働」

怪我などで移動に苦勞をとまなう人はいないだろうか。見え方や聞こえ方の関係で、情報を得るのに困難がある人はいないだろうか。いつでも共に動くという意識を持ちましょう。

これらの基本になるのは、「あなたは大切な人」という明確な意識とメッセージと行動です。声をかけあい、手をとりあって、予期せぬ災害に備えましょう。